

# 連結決算説明 2019年12月期第2四半期累計



(株)クボタ 取締役専務執行役員 企画本部長  
吉川 正人

2019年8月15日 (木)



## 2019年12月期第2四半期累計連結決算概要

For Earth, For Life  
Kubota

(億円)	2019年12月期 2Q累計	2018年12月期 2Q累計	増減		予想比増減 (2019年2月予想)	
			金額	%	金額	%
売上高	9,708	9,062	+ 646	+ 7.1	▲ 242	▲ 2.4
国内	3,101	2,865	+ 236	+ 8.3	▲ 29	▲ 0.9
海外	6,607	6,197	+ 410	+ 6.6	▲ 213	▲ 3.1
営業利益	11.4% 1,109	11.2% 1,011	+ 98	+ 9.7	+ 89	+ 8.8
税引前利益	11.8% 1,146	11.6% 1,052	+ 95	+ 9.0	+ 86	+ 8.2
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	8.4% 812	7.9% 719	+ 93	+ 12.9	+ 82	+ 11.2

(億円)	2019年12月期 2Q末	2018年12月期末	増減	
			金額	%
資産合計	30,343	28,957	+ 1,387	+ 4.8
親会社の所有者に 帰属する持分	13,805	13,399	+ 407	+ 3.0

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 2

- 予想との比較では
  - ✓ 売上高の未達は、欧米の出荷が下期にずれ込んだことや、干ばつの影響を受けているオーストラリア、現地通貨安の影響が続いているマニラなどなどで売上が想定を下回ったことによる

## 事業セグメント別売上高

For Earth, For Life  
Kubota

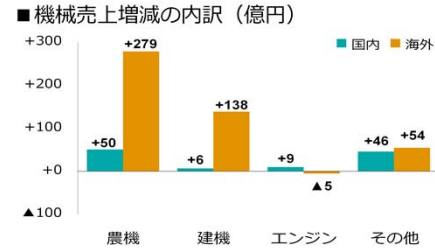
(億円)	2019年12月期 2Q累計	2018年12月期 2Q累計	増減	
			金額	%
<b>機械</b>	<b>8,088</b>	<b>7,510</b>	<b>+ 578</b>	<b>+ 7.7</b>
国内	1,671	1,559	+ 112	+ 7.2
海外	6,417	5,951	+ 467	+ 7.8
<b>水・環境</b>	<b>1,461</b>	<b>1,404</b>	<b>+ 57</b>	<b>+ 4.1</b>
国内	1,273	1,159	+ 114	+ 9.8
海外	188	245	▲ 57	▲ 23.3
<b>その他</b>	<b>159</b>	<b>148</b>	<b>+ 11</b>	<b>+ 7.3</b>
国内	157	146	+ 10	+ 7.2
海外	2	2	+ 0	+ 18.3
<b>売上高合計</b>	<b>9,708</b>	<b>9,062</b>	<b>+ 646</b>	<b>+ 7.1</b>
<b>国内売上高</b>	<b>3,101</b>	<b>2,865</b>	<b>+ 236</b>	<b>+ 8.3</b>
<b>海外売上高</b>	<b>6,607</b>	<b>6,197</b>	<b>+ 410</b>	<b>+ 6.6</b>

為替の影響（▲100億円）を除くと、機械海外は+9%の増。  
海外売上全体は+8%の増

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 3

**機械 +578億円（国内：+112 海外：+467）**

- 国内** ・農機はトラクタ、作業機共に増。建機、エンジンも増
- 海外** ・トラクタが主要地域の北米、欧州、タイでの好調により増  
 ・作業機は中国での低迷継続により大幅減  
 ・建機は北米での大幅増により増  
 ・エンジンは欧州が円高の影響により減少するも、北米、中国での増加により前年並み



**水・環境 +57億円（国内：+114 海外：▲57）**

- 国内** パイプインフラは鉄管や工事事業が増加するも、素形材や鋼管が減。環境は双葉町での廃棄物処理施設の建設による売上が大幅増
- 海外** パイプインフラは中東向けの鉄管が減。環境はポンプや浄化槽が減

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 4

①機械国内

- ・農機は、市場の拡大や新機種投入効果により、トラクタ、作業機ともに増加して+50億円（+9%）の増
- ・建機は、優遇税制の締め切りや消費増税に対する駆け込み需要などにより+6億円（+4%）の増
- ・エンジンは、国内OEM先メーカーの北米向け輸出の好調などにより+9億円（+11%）の増
- ・その他は、農業関連商品や補修部品などが伸長し、+46億円（+6%）の増

②機械海外

- ・農機のうち、トラクタは+358億円（+17%）の増
  - ✓ 北米は小型機の需要拡大に加え、自然災害の影響により昨年後半の出荷が当期にずれ込んだことなどにより大幅増
  - ✓ 欧州は低温による春需要の遅れ、欧州新規導入に伴う駆け込み需要の反動減、新機種の投入遅れなどの要因により昨年前半の販売が低迷していたため、そこからの回復により増加
  - ✓ タイはジャスミン米やキャッサバなどの価格が高位安定していることなどを背景に増加
- ・農機のうち、作業機は▲80億円（▲19%）の減
  - ✓ 主力の中国で市場の悪化が継続し、コンバイン、田植機ともに減少
- ・建機は+138億円（+10%）の増
  - ✓ ミニバックホー及びコンパクトトラックローダの市場拡大やコンパクトトラックローダの新機種投入効果等により大幅増
  - ✓ 欧州では、ドイツが需要拡大により増加したものの、出荷作業の遅れや、Brexitに対する懸念による英国での需要縮小などにより欧州全体では減
  - ✓ 中国は市場が拡大しているものの、特に4 t以上での競争激化により減少
- ・エンジンは欧州の排ガス規制強化に伴う前倒し需要の反動減や、ユーロやポンドに対する円高の影響があったものの、北米や中国での増加により海外全体では前年並み
- ・機械の為替影響を除くベースでの地域別売上高はその他地域を除いて増加したものの、円高の影響により円貨ベースでは欧州とアジアも減収

③水・環境

- ・国内が+114億円（+10%）の増
  - ✓ パイプインフラ関連では、鉄管や管路工事が増加したものの、素形材や土木工用の鋼管（杭）が減少
  - ✓ 環境関連では、福島県双葉町における廃棄物処理施設の建設による売上が大幅に増加
- ・海外は▲57億円（▲23%）の減
  - ✓ 中東向けの鉄管が減少

## 営業利益

For Earth, For Life  
Kubota

(億円)	2019年12月期 2Q累計		2018年12月期 2Q累計		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
営業利益	1,109	11.4	1,011	11.2	+ 98	+ 9.7

### 営業利益 (+98億円) の増減要因

<b>1.為替変動</b>	米ドル(109円→110円 ※1) ユーロ(132円→124円 ※1) 他	+15億円 ▲30億円 ▲15億円	<b>▲30億円</b>
<b>2.為替差損益</b>			<b>+15億円</b>
<b>3.原材料</b>	機械(鋼材、買入部品・CD/CU) 水・環境(鉄スクラップ 他)	▲40億円 ▲15億円	<b>▲55億円</b>
<b>4.インセンティブ率変動</b>	北米+88億円 他		<b>+82億円</b>
<b>5.増販益</b>			<b>+170億円</b>
<b>6.製品値上げ</b>			<b>+65億円</b>
<b>7.その他</b>			<b>▲149億円</b>

※1: 但し、日本からの製品輸出にかかる輸送、在庫期間を加味した利益実現レートは、米ドル111円→112円、ユーロ133円→127円程度

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 5

- インセンティブ率の変動 (+82億円)
  - ✓ 米国では熾烈な販売競争が続いており、強いプログラムが維持されているものの、金利の低下が大きな増益要因
- その他 (▲149億円)
  - ✓ 主に販売費及び一般管理費や工場固定経費の増による
  - ✓ エンジンの空輸費用は前年比で改善
  - ✓ 増産のための外注コストなどが悪化

## 事業セグメント別営業利益

For Earth, For Life  
Kubota

(億円)		2019年12月期2Q累計 (実績)	2018年12月期2Q累計 (実績)	増減
機械	売上高	8,088	7,510	+ 578
	セグメント利益	1,172	1,087	+ 84
	利益率	14.5%	14.5%	+0.0P
水・環境	売上高	1,461	1,404	+ 57
	セグメント利益	98	91	+ 7
	利益率	6.7%	6.5%	+0.2P
その他	売上高	159	148	+ 11
	セグメント利益	16	11	+ 5
	利益率	10.2%	7.5%	+2.7P
全社/消去	セグメント利益	▲ 177	▲ 178	+ 2
計	売上高	9,708	9,062	+ 646
	営業利益	1,109	1,011	+ 98
	利益率	11.4%	11.2%	+0.3P

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 6

- 機械は、固定費の増加や原材料価格の上昇があったものの、国内外での増収や米国での金利低下によるインセンティブ率の改善、値上げ効果などで補い増益
- 水・環境は、原材料価格の上昇を国内の増収や値上げ効果などで補い増益

## 税引前利益・四半期利益

For Earth, For Life  
Kubota

(億円)	2019年12月期 2Q累計		2018年12月期 2Q累計		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
税引前利益	<b>1,146</b>	11.8	<b>1,052</b>	11.6	<b>+ 95</b>	+ 9.0
四半期利益	<b>867</b>	8.9	<b>781</b>	8.6	<b>+ 87</b>	+ 11.1

### 四半期利益の帰属

親会社の所有者	<b>812</b>	8.4	<b>719</b>	7.9	<b>+ 93</b>	+ 12.9
非支配持分	<b>55</b>	0.5	<b>61</b>	0.7	<b>▲ 6</b>	▲ 9.5

1株当たり配当	(円)	2019年12月期	2018年12月期	増減
	(中間)	<b>17 円</b>	<b>16 円</b>	<b>+ 1 円</b>
(期末)	<b>(未定)</b>	<b>18 円</b>	-	
(通期)	<b>(未定)</b>	<b>34 円</b>	-	

### <株主還元の基本方針>

配当性向：目標30% 総還元性向：30%超

- 上限200億円(取得期間：2019年4月24日～12月19日)の自己株式取得枠を設定
- 2019年7月31日までに115億円の自己株式を取得

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社 Kubota 7

- 中間配当は+1円増配の17円
- 自己株については、4月に200億円の取得枠を設定し、7月末までに115億円の自己株式を取得

## 財政状態計算書（資産）

For Earth, For Life  
Kubota

(億円)	2019年12月期 2Q末	2018年12月期末	増減	為替を除く 増減
<b>流動資産</b>	<b>17,085</b>	<b>16,395</b>	+ 690	
現金及び現金同等物	2,208	2,291	▲ 84	
営業債権	6,880	6,604	+ 276	+ 380
金融債権	2,741	2,673	+ 69	
棚卸資産	3,920	3,707	+ 213	+ 290
その他	1,336	1,120	+ 216	
<b>非流動資産</b>	<b>13,258</b>	<b>12,561</b>	+ 697	
金融債権	6,365	6,219	+ 146	
その他	6,893	6,342	+ 551	
<b>資産合計</b>	<b>30,343</b>	<b>28,957</b>	+ 1,387	
<b>金融債権 計</b>	<b>9,106</b>	<b>8,891</b>	+ 215	+ 340
<b>&lt;ご参考&gt; 海外子会社期末日レート (円)</b>				
米ドル	108	111	▲ 3	
ユーロ	122	127	▲ 5	

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 8

- 資産合計は前期末比+1,387億円（+4.8%）の増
- 営業債権は為替の影響を除いた実質ベースで+380億円の増
  - ✓ 特に販売の好調な北米で増加
- 棚卸資産は実質ベースで+290億円の増
  - ✓ 在庫を削減している中国で減少したものの、出荷タイミングのズレにより米国で一時的に増加したほか、親会社では下期の出荷が増加する鉄管、コンバイン、建機などを中心に増加
- 金融債権は流動・非流動あわせて実質ベースで+340億円の増
  - ✓ 主に小売が好調な北米やタイで増加
  - ✓ 金融債権の回収は依然良好な状態を維持
- 非流動資産の「その他」が+551億円増加
  - ✓ 主に有形固定資産が+482億円増加したことによる
  - ✓ 有形固定資産の増には新会計基準（IFRS第16号「リース」）の適用により、当期にリースの使用権資産を計上した一過性の影響が約340億円含まれる



## 財政状態計算書（負債）

For Earth, For Life  
Kubota

(億円)	2019年12月期 2Q末	2018年12月期末	増減	為替を除く 増減
<b>流動負債</b>	<b>9,369</b>	<b>9,228</b>	<b>+ 141</b>	
社債及び借入金	3,221	3,491	▲ 269	
営業債務	3,224	3,068	+ 156	
その他	2,924	2,670	+ 254	
<b>非流動負債</b>	<b>6,310</b>	<b>5,464</b>	<b>+ 846</b>	
社債及び借入金	5,530	4,902	+ 628	
退職給付に係る負債	150	145	+ 5	
その他	630	417	+ 213	
<b>負債合計</b>	<b>15,680</b>	<b>14,692</b>	<b>+ 987</b>	
<b>有利子負債</b>	<b>8,751</b>	<b>8,393</b>	<b>+ 359</b>	<b>+ 500</b>
<b>DEレシオ（ネット）</b>	<b>0.47</b>	<b>0.46</b>	<b>+ 0.02</b>	
<b>金融を除くDEレシオ（ネット）</b>	<b>▲ 0.14</b>	<b>▲ 0.18</b>	<b>+ 0.04</b>	

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 9

- 有利子負債は流動・非流動あわせて実質ベースで+500億円の増
- 金融債権の増加に伴い、北米で増加
- 流動負債および非流動負債の「その他」が合計で+467億円増加
  - ✓ この内、約340億円が新会計基準（IFRS第16号「リース」）の適用により、リース負債を計上したことによる

## 財政状態計算書（資本）

For Earth, For Life  
Kubota

（億円）	2019年12月期 2Q末	2018年12月期末	増減
親会社の所有者に帰属する持分	13,805	13,399	+ 407
資本金	841	841	-
資本剰余金	850	853	▲ 3
利益剰余金	11,978	11,354	+ 624
その他の資本の構成要素	208	353	▲ 146
在外営業活動体の為替換算差額	▲ 357	▲ 192	▲ 165
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	565	546	+ 19
自己株式	▲ 73	▲ 3	▲ 69
非支配持分	858	866	▲ 7
資本合計	14,664	14,264	+ 399
親会社所有者帰属持分比率	45.5%	46.3%	▲ 0.8P

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社 Kubota 10

## キャッシュ・フロー計算書

For Earth, For Life  
Kubota

(億円)	2019年12月期 2Q累計	2018年12月期 2Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	509	584	▲ 75
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 646	▲ 164	▲ 482
有形固定資産及び無形資産の取得	▲ 517	▲ 238	▲ 280
その他	▲ 129	73	▲ 202
財務活動によるキャッシュ・フロー	65	▲ 171	+ 236
為替レート変動の現金及び現金同等物に対する影響	▲ 11	▲ 38	+ 26
現金及び現金同等物の純増減	▲ 84	211	▲ 294
フリーキャッシュ・フロー	▲ 8	346	▲ 355

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社 Kubota 11

- 営業活動によるキャッシュ・フローの内訳は、利益と減価償却費で+1,173億円の収入、金融債権の増で▲341億円の支出、その他▲324億円の支出
  - ✓ 前年比では▲75億円の収入減。これは主に北米での大幅な増収に伴い、営業債権の増加幅が拡大したことによる
- フリーキャッシュフローは前年比▲355億円減少して▲8億円の支出
  - ✓ 国内での新研究開発施設建設のための土地取得などの積極的な設備投資を実施したことにより、有形固定資産および無形資産の取得にかかる支出が増加したことなどによる

財政状態計算書

(億円)	2019年12月期2Q末		2018年12月期末	
	金融事業	金融事業を除く ベース	金融事業	金融事業を除く ベース
資産合計	11,106	20,146	11,011	19,071
現金及び現金同等物	199	2,009	207	2,084
営業債権	349	6,552	311	6,312
金融債権	9,106	-	8,891	-
棚卸資産	-	3,920	-	3,707
有形固定資産	5	3,778	6	3,295
その他	1,447	3,888	1,596	3,673
負債合計	9,390	7,025	9,320	6,344
有利子負債	8,803	218	8,757	-
その他	587	6,808	563	6,344
資本合計	1,716	13,121	1,691	12,727

損益計算書（金融事業）

(億円)	2019年12月期 2Q累計	2018年12月期 2Q累計	増減	
	金額	金額	金額	%
売上高	363	315	+ 48	+ 15.2
営業利益	37.1% 135	45.2% 142	▲ 8	▲ 5.3
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	22.5% 82	29.0% 91	▲ 10	▲ 10.7

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 12

- 金融事業を除くベースでの有利子負債は218億円。 現預金2,009億円を差し引いたネットではマイナスの1,791億円となり、無借金状態を維持
- 金融事業のP/Lは販売費及び一般管理費の増により、わずかに減益となったものの、依然高い収益性を維持
- 高い収益性は、金融債権の健全性が高いレベルで維持されていることにより、貸倒損失が極めて少ないことなどによる

## 機械事業の動向

## 機械事業の動向（米国）

For Earth, For Life  
Kubota

### 米国

良好な景気を背景に小型トラクタ、建機、エンジンの需要は堅調に推移。中・大型トラクタ市場は天候不順などにより微減

#### トラクタ小売

小型は堅調な米国景気や底堅い住宅市場を背景に拡大が継続。中型は一部地域での低温・多雨の影響はあるものの、シェア拡大により増。芝刈機は低温により減も、ユーティリティ・ピークルが増

#### 建機/小売

堅調な住宅、建設市場を背景にMBとCTLが増。SSLは市場の縮小により減。CTLの新機種は第2四半期より出荷を開始

#### エンジン/卸売

良好な建産機需要を受けて増

#### ■トラクタ市場小売台数伸長率（前年同期比）

		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-12月
2018年	0-40馬力	+1.6%	+11.6%	+13.1%	+7.3%	+8.3%	+9.2%
	40-120馬力	▲2.1%	+6.5%	▲0.1%	+2.4%	+3.0%	+2.1%
	0-120馬力	+0.4%	+10.3%	+8.7%	+5.5%	+6.8%	+7.0%
2019年	0-40馬力	+9.6%	+4.9%	-	-	+6.4%	-
	40-120馬力	▲1.0%	▲0.1%	-	-	▲0.4%	-
	0-120馬力	+6.2%	+3.6%	-	-	+4.5%	-

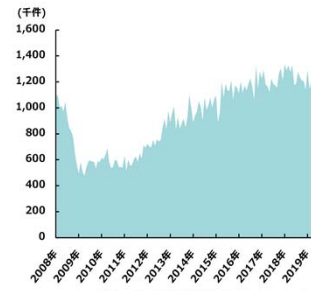
出典：AEM（Association of Equipment Manufacturers）

#### ■0-8tバックホー市場小売台数伸長率（前年同期比）

		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-12月
2018年		+5.9%	+15.3%	+14.1%	+0.8%	+11.6%	+9.3%
2019年		+2.7%	+7.4%	-	-	+5.6%	-

出典：AEM（Association of Equipment Manufacturers）

#### ■米国住宅着工件数（季節調整済・年率換算）



出典：米国国勢調査局（U.S. Census Bureau）

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社コブタ 14

### <上期実績>

- 米国経済は米中貿易摩擦による景気不透明感はあるものの、依然緩やかな成長が継続
- 住宅市場では、金利低下の効果はあまり見られないものの、住宅着工は120万軒前後の高水準を維持。住宅価格も堅調に推移
- 株式市場も、変動はありながらも依然高い水準を維持

### ①トラクタ

#### 市場環境

- 個人向けが中心の小型（40馬力以下）市場は、前年比+6.4%の拡大と堅調。ただし、5-6月の気温が例年よりも低く、市場の伸びを鈍化させている。
- 中型（40～120馬力）市場は、北・中西部などの低温・多雨の影響により微減
- 当社の大型トラクタ（M7）が属する120～160馬力の市場は、天候不順や米中貿易摩擦による農業市場の不透明感もあり、▲1.0%の減
- 小売は全体（トラクタ、芝刈機、ユーティリティ・ピークル）で+6%の増
  - 小型トラクタは市場は堅調ではあるものの、5～6月に一部の地域で低温や多雨が発生したことにより、第2四半期の伸びが鈍化
  - 中型トラクタも同様の理由で市場が微減となったものの、シェアの拡大により当社の小売は増加
  - 大型トラクタは市場の縮小もあり、減少
  - 芝刈機は低温により芝の生育が遅れたため、横ばい
  - ユーティリティ・ピークルは昨年投入した高速ガソリンモデルの小売が本格化したことにより、伸長
- グレートブレインズ社のインプラメントは中小型向けが好調だったものの、大型向けが減少したため全体では微増

### ②建機

#### 市場環境

- 堅調な建設需要により、ミニバックホー、コンパクトトラックローダが増
  - 一方で、農業市場の不透明感が続いていることや建設市場でのニーズがコンパクトトラックローダに移行していることなどにより、スキッドステアローダは減少
- 小売は全体で+4%の増
  - スキッドステアローダが減少したものの、ミニバックホーやコンパクトトラックローダが得意とする一般小売向けを中心に増加
- コンパクトトラックローダの新モデルについては、第2四半期から卸売を開始

### ③エンジン

- エンジンは、オイル・エネルギー市場の好調や良好な建産機需要を背景に増加

### <下期見通し>

- 依然として景気不透明感はあるものの、個人向けの小型トラクタは拡大傾向が継続する見込み
- 中型・農用トラクタについても、天候の回復に伴い、市場は回復していくと予想
- 建機についても需要は拡大基調が継続すると予想。特にコンパクトトラックローダが新モデルの投入効果により大きく増加する見込み。

欧州

トラクタ市場は天候不順や、欧州新規制導入に伴う駆け込み需要の反動減などによる昨前半の低迷から回復。  
建機は高水準の需要が継続するも、Brexitの影響が懸念される

トラクタ小売

小型は市場の回復や、当社新製品の欧州新規制の認証取得遅れによる昨年の販売低迷からの回復により増加。  
大型もM7の改良モデルなどの新機種効果により拡大。  
フランスなどでの干ばつ影響を懸念

インプラメント/卸売

農業市場の先行き不透明感などから微減

建機/小売

ドイツでは旺盛な工事需要により成長が継続。英国ではBrexitによる景気悪化懸念を背景とする市場の落ち込みを受けて減

エンジン/卸売

需要は高水準を維持しているものの、排ガス規制強化前の駆け込み需要の反動減により減。年後半にかけては昨年末の高水準の駆け込み需要の反動減を想定

<上期実績>

①トラクタ

- 市場は天候不順や、欧州新規制導入に伴う駆け込みの反動減により、昨前半の需要が低迷していたことなどにより増加
- 小売は、市場の回復に加え、昨年は欧州新規制の認証取得遅れにより新製品の投入が遅れていたこともあり、それらの反動によって増加
  - ✓ 大型も昨年後半から本格出荷を開始しているM7の改良モデルやスペシャル機の新機種効果により前年から大幅増
- 卸売は、芝刈機が主に英国での公共予算の削減や少雨による乾燥の影響を受けて減少。一方でトラクタは認証取得の遅れなどにより昨前半は新製品がスムーズに出荷できていなかったことや、各国での市場拡大により増加

②インプラメント

- 農業市場の先行き不透明感などにより微減

③建機

- 市場は、欧州全体では穏やかな成長が継続しているものの、英国ではBrexitがレンタルメーカーの投資計画に影響を与えており、市場は前年比でマイナス
- 小売は、英国の市場低迷などにより、減少
- 卸売は、生産がハイレベルに推移する中で、サプライヤーからの部品供給と生産計画の調整に苦労し、出荷が遅れていることや、英国での市場縮小などにより減少

<下期見通し>

- トラクタ市場は、拡大基調を維持するものの、フランスなどでの干ばつや複数の国での景気不透明感から拡大ペースは減速すると予想
- 建機市場は国によって状況が異なるものの、フランスやドイツなどでの旺盛な建設需要を背景に全体としては穏やかな拡大基調を維持すると予想
  - ✓ ただし、英国についてはBrexitによる景気悪化懸念により、厳しい市場環境が継続する見込み
- エンジンは昨年末に高水準の駆け込み需要があったことから、下期にかけて台数ベースでは減少幅が拡大する見込み。
  - ✓ ただし、排ガス規制対応に伴う売価アップにより金額ベースでの減少幅は限定的

## 機械事業の動向（アジア）

For Earth, For Life  
Kubota

### タイ・ 周辺国

タイ国内では水不足の影響はあるが、ジャスミン米やキャッサバ価格の高位安定を受けて農機需要が拡大。周辺国ではカンボジアのトラクタ需要が拡大するも、ミャンマーは現地通貨安の影響などにより低迷

#### トラクタ小売

稲作向けは、ジャスミン米価格の高位安定を背景に増。畑作向けは、キャッサバ向けが好調も、シュガーケーン向けの低迷により横ばい

#### コンバイン小売

ジャスミン米価格の高位安定により、今年の低迷から回復

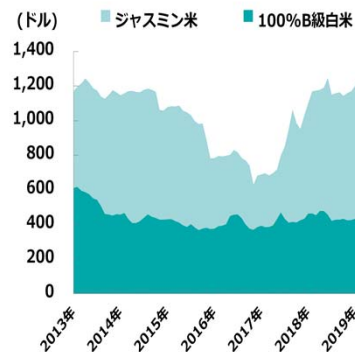
#### 建機小売

都市部での労働力不足を背景とした需要拡大により増

#### 周辺國小売

カンボジアは、キャッサバなどの畑作向け需要の拡大を背景に増。  
ミャンマーは、米ドルに対する現地通貨安によるディーラーの仕入れコスト上昇などの影響により大幅減

■タイ米輸出価格推移 ドル/トン



出典：米国農務省、タイ米輸出協会

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 16

### <上期実績>

#### ①トラクタ（タイ国内）

- 市場では水不足の影響はあるものの、ジャスミン米やキャッサバの価格が高位安定していることを受け、需要の拡大が継続
- 小売は+10%の増加
  - ✓ キャッサバ向けが好調な半面、買い取り価格の低下を受けてシュガーケーン向けが減少したため、畑作向けは前年並み
  - ✓ 稲作向けは大幅増
- 卸売は、前年の在庫調整の反動や、稲作向けの好調を受けて大きく増加

#### ②コンバイン（タイ国内）

- 米価の高位安定を受けて今年の低迷から回復し、大幅増

#### ③建機（タイ国内）

- 小売は、都市部での労働力不足の進行に伴い、拡大が継続

#### ④周辺国

- カンボジア、ラオスについては、キャッサバなどの畑作物向けの需要増加を受け、トラクタが大きく増加したものの、水不足による二期作米の作付けエリア減少などによりコンバインが大幅減
- ミャンマーは、現地通貨のチャットに対する米ドルの高止まりがディーラーの採算悪化や値上げにつながっているほか、中国向け輸出の減少による穀物価格の下落などの要因も重なり、販売の低迷が継続
- 卸売は、コンバインの減やミャンマーの販売低迷の影響が大きく、減少

### <下期見通し>

- タイ国内での水不足の影響が懸念されるものの、穀物価格が依然高水準にあることから、増加傾向が継続すると予想
- カンボジアは、キャッサバなどの穀物価格が高水準であることからトラクタは引き続き堅調に推移すると予想
- 上期に販売が低迷したコンバインについても1期作米向けの本格的な販売シーズンに入り、水不足の解消が進むことで需要が回復に向かうと予想
- ミャンマーは、ドル高・チャット安の解消は想定しづらいことから市場の大幅な回復は期待せず。
  - ✓ ただし、為替影響による市場の急激な落ち込みは昨年後半から始まっていたことから、下期の販売は前年を上回る見込み。
- これらの結果、当社の売上も周辺3国を含めたタイ全体で増加すると予想。



## 機械事業の動向（アジア）

For Earth, For Life  
Kubota

**中国** 中央政府農機購入補助金は前年比微減。米価や中古機価格の下落による請負業者の収益悪化が継続し、農機市場は縮小。  
建機・エンジンは伸びは鈍化しているものの、市場の拡大が継続

- トラクタ小売** 高馬力帯への需要の移行や、ユーザーの収益性悪化によりイニシャルコストの低い安価な製品が志向されていることにより減
- コンバイン小売** 請負業者の収益性悪化に伴う更新意欲の減退や高処理量機への需要移行の継続により減
- 田植機小売** 米価下落に伴う購入意欲の減退や転作による需要縮小などにより減
- 建機小売** 0-4t機は普及率も低く増加するも、4t以上は競争激化により減少し、全体では減
- エンジン卸売** 建産機向けを中心に引き続き好調に推移

■ 中国 中央政府農機購入補助金推移

		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
補助金(億円)	第1次	-	-	-	110	130	200	170	210	228	186	186	180
	年間計	40	130	155	175	215	218	238	237	237	186	186	180

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 17

### <上期実績>

#### ①農機

- 政府の農機購入補助金は前年から微減の180億円
- ただし、農機市場は米価や中古機価格の下落、業者間の競争激化による賃刈業者の収益性悪化により、市場の縮小が継続
- 農機の小売はコンバイン、田植機、トラクタともに減少
  - ✓ トラクタは、ユーザーの収益性悪化により安価でより高馬力の製品へと市場ニーズが移行していることにより、当社の小売は横ばい
  - ✓ 汎用コンバインについては、当社の強みである製品の耐久性や刈取効率が特に評価されるのがコントラクターであるが、コントラクターの収益性悪化により市場が縮小しており、またそのような状況を受けて一部のニーズが安価な製品へ移行していることから当社の小売は減少
  - ✓ 田植機も米価低迷、コメから養殖や他の作物への転作などによる需要減の影響を受けて減少
  - ✓ 今後は製品戦略の見直しや、合作社への販売にも注力することを通じて事業の再構築を図る

#### ②建機

- 工事量の増加や人件費の高騰、労働力不足を受けて需要が拡大
- 小売は当社が得意とする0-4t機の販売が増加したものの、ローカルメーカーやそれに追随する韓国及び欧米のメーカーの低価格販売により価格競争が激化している4t以上の無理な販売を控えたため、全体では減少

#### ③エンジン

- 建産機向けを中心に大幅増

### <下期見通し>

- 農機は厳しい競争環境が続く見込み
  - ✓ 当社はサービス力の向上や各地域特性にあった販売活動、費用や在庫の削減を通じて、業績の確保を図る
- 建機は上期同様当社の販売は0-4t機が伸長し、4t以上は減少する傾向が続くと予想
- エンジンは建産機向けを中心に引き続き好調を維持する見込み

## 機械事業の動向（日本）

For Earth, For Life  
Kubota

### 日本

農機市場は農家数の減少などの構造的な要因を抱えるものの、米価回復や消費増税前の駆け込みもあり、需要は堅調に推移。建機・エンジンは旺盛な建産機需要を受けて堅調に推移

#### 農機/小売

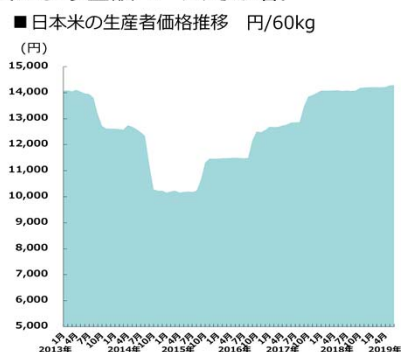
トラクタは市場の拡大に加え、新製品投入効果により増。コンバインも増。但し、大型機が昨年の好調の反動により減少し、金額ベースでは前年並み。田植機は前年並みも、大型機の伸長により金額ベースでは増。

#### 建機/小売

堅調な工事需要や、優遇税制の締め切りが当初は2019年3月末であったことによる駆け込み需要などにより増

#### エンジン/卸売

OEM先の北米向け輸出などが堅調な建産機需要を背景に増



出典：農林水産省「農作物価統計調査」

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 18

### <上期実績>

#### ①農機

- 農家数の減少などの構造的な問題はあるものの、米価回復や消費増税前の駆け込み需要もあり、トラクタ、コンバインの市場は拡大
- 比較的安価な田植機は、消費増税前の駆け込み需要の影響が小さく前年並み
- トラクタの小売は米価の回復や消費増税前の駆け込み、新製品投入効果などにより増加
- コンバインは昨年前半は排ガス規制強化前の作り溜め機の販売が極めて好調であった反動により大型機が減少しているものの、中小型機の伸長により、台数ベースでは増、金額ベースでは横ばい
- 田植機は小型機の減を、新製品の販売拡大による大型機の増で補い、台数ベースでは前年並み、金額ベースでは増加
- コンバインのシェアが微減となったものの、トラクタ、田植機のシェアアップにより、3機種トータルのシェアは拡大

#### ②建機

- 市場は、堅調な工事需要や3月末の優遇税制の締め切り前の駆け込みもあり、拡大

#### ③エンジン

- 建産機市場の好調を受け、堅調に推移

### <下期見通し>

- 農機は消費増税前の需要増が想定されるものの、10月以降はその反動減が見込まれるため、下期全体では穏やかな増加を想定
- 当社は130周年キャンペーンにより、担い手農家向けのマーケティング強化を図り、事業拡大を図る
- 建機は消費増税前の駆け込みや優遇税制が2021年3月末まで延長されたことによる好影響も想定されるものの、増税後の反動減も想定されることから、穏やかな増加に留まると予想
- エンジンは今後も順調に推移する見込み

# 業績予想

## 2019年12月期業績予想

For Earth, For Life  
Kubota

※ 2019年12月期の予想は前回発表時（2019年2月14日）から変更ありません

(億円)	2019年12月期 (予想-2月公表)	2018年12月期 (実績)	増減	
			金額	%
<b>売上高</b>	<b>19,700</b>	<b>18,503</b>	<b>+ 1,197</b>	<b>+ 6.5</b>
<b>国内</b>	<b>6,260</b>	<b>5,773</b>	<b>+ 487</b>	<b>+ 8.4</b>
<b>海外</b>	<b>13,440</b>	<b>12,730</b>	<b>+ 710</b>	<b>+ 5.6</b>
<b>営業利益</b>	10.2% <b>2,000</b>	10.2% <b>1,893</b>	<b>+ 107</b>	<b>+ 5.6</b>
<b>税引前利益</b>	10.6% <b>2,080</b>	10.7% <b>1,972</b>	<b>+ 108</b>	<b>+ 5.5</b>
親会社の所有者に帰属する <b>当期利益</b>	7.4% <b>1,450</b>	7.5% <b>1,386</b>	<b>+ 64</b>	<b>+ 4.6</b>

為替の影響(▲470億円)を除くと、機械海外は+9%の増。海外売上全体は+9%の増

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 20

- 通期業績予想は2月に公表したもののから変更なし
- 売上高1兆9,700億円は射程距離にあり、営業利益2,000億円は十分達成可能
- 上期は、期初予想に比べて減収となったものの、これは欧米での出荷のズレに起因するところが大きく、国内の水・環境部門についても福島県双葉町の案件で出荷タイミングのズレがあった
- これらのズレが下期の上積みになるほか、北米の金利低下によるインセンティブの減も、期初想定比での増収・増益要因として、ある程度は見込めることから、今の想定為替レートであれば、上期の減収を下期に吸収できる可能性があるとする
- 一方で、欧州ではBrexitの影響が懸念されるほか、北米についても景気の先行き懸念がある
- タイでの水不足や、為替レートの不安定な動きなども含め、事業環境が不透明
- かかる状況の中で、上期は前年比、期初予想比ともに増益となっているものの、利益予想の上方修正は控える

## 想定為替レート及び設備投資等

For Earth, For Life  
Kubota

### ■ 為替レート

		2019年12月期			2018年12月期
		(今回見直し)	(期初予想)	(実績)	(実績)
円/米ドル	上期(1~6月)	-	108	110	109
	下期(7~12月)	106	108	-	112
	年間(1~12月)	108	108	-	110
円/ユーロ	上期(1~6月)	-	122	124	132
	下期(7~12月)	120	122	-	129
	年間(1~12月)	122	122	-	130

### ■ 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)	2019年12月期		2018年12月期
	(今回見直し)	(期初予想)	(実績)
設備投資 ※1	1,000	1,000	641
減価償却費 ※1	510	510	496
研究開発費	600	600	538

※1：IFRS第16号「リース」の適用に伴う使用权資産の計上及び使用权資産に係る減価償却費は含まない

【2019年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 21

- 為替レートの年間見通しに変更はないが、下半期だけでは、ドルが106円、ユーロが120円となる
- 設備投資及び減価償却費の見通しには、新会計基準（IFRS第16号「リース」）の適用に伴う使用权資産の計上や使用权資産に係る減価償却費は含まない

本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。



ご清聴ありがとうございました。

**For Earth, For Life**  
**Kubota**